【土木史研究　第21号　2001年５月　自由投稿論文】

電力土木の歴史－第２編　電力土木人物史（その９）

正会員　稲松技術士センター　稲松敏夫　（技術士）

History of Electlic Civil Engineering
－Part 2 History of electlic Civil Engineer.

by Toshio Inamatsu.

概　　要

筆者は先に第１回～第11回にわたって、電力土木の変遷と、電力土木に活躍した人々を中心に、各河川の水力開発について述べ、その中で電力土木に一生を捧げた人々のうちの代表的人物60名を発掘して、その結果をまとめ得た。さらに９年前からその中50名の人々の業績を詳述し、第２編電力土木人物史として37名（知久清之助、伊藤令二、北松友義、目黒雄平、高桑鋼一郎、久保田豊、内海清温、熊川信之、岩本常次、吉田登、水越達雄、市浦繁、鵜飼孝造、和澤清吉、大林士一、金岩明、大橋康次、山本三男、味埜稔、中村光四郎、浅尾格、永田年、平井弥之助、野瀬正義、畑野正、田中治雄、石川栄次郎、藤本得、村田清逸、後藤壮介、泉悟策、田代信雄、吉田栄進、原文太郎、山家義雄、大西英一、矢崎道美）について発表し、今回はその９として数名を発表する。（明治～昭和期、土木、開発した人）（１分類　人物史、２分類　河川、エネルギー）

（Ｉ）総括

第１編各河川水力開発の変遷には、11年間にわたり、日本全国及び世界大戦前の朝鮮、中国、台湾、東南アジア、世界大戦後の東南アジア、ブラジル等の開発変遷とその開発に一生を捧げた人物60名を発掘した。

第２編電力土木人物史は７年にわたり、その内37名分をまとめた。

今回はその９として引つづき数名分を調査、発表する。

(Ⅱ) 知り得た成果

(1) 電力土木120年の人の流れの変遷

(イ) 親分、子分時代から電力会社別地域別への流れ

(ロ) 企画、設計、施工管理電力会社直営から、企画、施工管理は電力会社直営、設計はコンサルタントへ委託に移行した。

(2) 親子二代の電力土木屋

①北松（東北電力）②伊藤（電源開発）③知久（東京電力）④山本（中国電力）⑤大西（日本発送電）⑥大橋（北海道電力）など親子二代の電力土木屋が多くいることを発見した。

(3) 水力、火力、原子力の変遷

特に120年の電力土木の中70年は水力時代（ダム全盛）70年から80年（15年間）は火力時代、85年から120年（35年間）は原子力時代となり、水力時代の土木屋の活躍の場はダム全盛時代でダムの各タイプの開発に各電力会社が技術を競ったが、火力、原子力時代となって耐震設計、基礎地盤、港湾、取放水、安全審査、環境調査と多元的に活躍の場が拡大した。

(4) 世界大戦前の北朝鮮、韓国、台湾、海南島、佛印への電力開発への国際的協力から大戦後の南米、東南アジア、ヨーロッパへの国際的協力へと展開が拡大していった。

(Ⅱ) 人物史（各論）

(1) 渡部　時也

(イ) はじめに

本稿をまとめるにあたり中部電力㈱取締役土木建設部長　宮口友延氏から「電力土木人物銘々伝（中部電力）」「渡部時也の業績」等送っていただいた資料にもとづいて渡部時也の略歴、業績と人となりを掴み得た。

心から感謝申し上げる。

筆者が北陸電力㈱勤務中、能登原子力発電所調査の為、当時中部電力㈱浜岡原子力発電所の調査建設についての資料等中部電力㈱へお伺いした際、直接、間接に当時中部電力副社長の渡部時也並びに関係の方々に御指導をいただいた。改めて感謝申し上げる。

(ロ) 渡部時也の年譜

明治44年10月19日　長野県に出生
昭和９年３月　東京大学土木工学科卒業
昭和９年４月　矢作水力㈱入社
　　泰阜（発）建設工事
昭和12年９月　和合水力発電所、建設工事所長
昭和13年６月　依願退職、逓信省電力管理準備局開発課第二設計係
昭和13年７月　逓信省電気局水力課兼務
昭和18年11月　軍需省電力局計画課
昭和20年８月　商工省電力局施設課開発班長
昭和24年５月　通産省資源庁電力局開発第二課長
昭和26年３月　依願免本官
昭和26年５月　中部電力㈱施設部計画課長
昭和27年３月　建設計画係長
昭和29年２月　土木技師長兼務
昭和33年６月　名古屋支店次長
昭和35年６月　支配人企画室長
昭和37年５月　取締役名古屋支店長

昭和40年11月　常務取締役名古屋支店長
昭和41年５月　常務取締役企画部長
昭和42年４月～43年３月　土木学会中部支部長
昭和45年５月　発電水力協会理事
昭和47年５月　中部電力㈱取締役副社長
昭和49年10月　藍綬褒章
昭和52年６月　中部電力㈱取調役常任相談役
昭和55年４月　中部電力㈱取締役相談役
昭和61年４月　勲二等瑞宝章
平成元年６月　退任
平成５年12月３日　逝去（82才）

(ハ) 業績と人となり

石川栄次郎が「ダムの鬼」と呼ばれ、副社長に栄進しても水力電源開発の先頭に立つなど、常に土木出身であること鮮明であったのに対して、３代目社長加藤乙三郎のもとで副社長を務め、平成元年６月中部電力㈱の相談役を退いた渡部時也は、比較的早い時期から土木部門を離れて、幅広く活躍した人であった。

渡部時也は、昭和９年春、矢作水力に入社したが、13年には依願退職して、逓信省電力管理準備局に入局、その後軍需省、商工省、通産省と第２次大戦をはさむ電力界にとって、最も困難な時代に、行政の立場から、電力の安定供給問題に取り組み、特に戦後の電力再編成に際しては、官側の委員として大活躍した。

（26年３月依願免官、中部配電を経て中部電力入り）

33年６月建設部土木技師長を最後に土木部門の業務を離れ、名古屋支店次長に転じたが、翌34年９月、未曽有の大被害をもたらした伊勢湾台風の通過後には、逸早く要所要所に街灯をともして、民心の安定に寄与するなど、復旧作業の陣頭指揮に当たった。中部電力は迅速適切な復旧作業が認められて、民間企業として、唯一中部日本災害対策本部長表彰を受けている。

渡部時也は35年の企画室長（40年）と引き続いて、主に、企画部門を管掌、47年５月、副社長に就任した。

副社長に就任するかたわら、渡部時也は、いくつかの公職に就いたが、その多くは、原子燃料、特に原子力に関するものであり、副社長時代から取締役常任相談役（52年－55年）在住中に前後４回、ウラン濃縮や燃料再処理に関する用務で海外へ出張している。

55年渡辺は前年辞任した井上五郎に続く中部電力出身２人目の原子力委員に就任（これに伴い、中部電力常任相談役から相談役へ）６年間委員を務めた。61年辞任、死去まで同委員会参与の地位にある。

藍綬褒章を49年10月、勲二等瑞宝章61年４月にそれぞれ受賞している。

趣味は、ゴルフ。数少ない戦前派のゴルフ紳士であった。

(ニ) 私の渡部時也観

筆者が北陸電力㈱勤務中、能登原子力発電所調査の為、当時中部電力副社長の渡部時也に、浜岡原子力発電所の調査、建設について御指導を受けた。原子力及び土木の大先達の御指導を心から感謝申し上げる。

(2) 東　　正久

(イ) はじめに

本稿をまとめるにあたり、近畿コンクリート

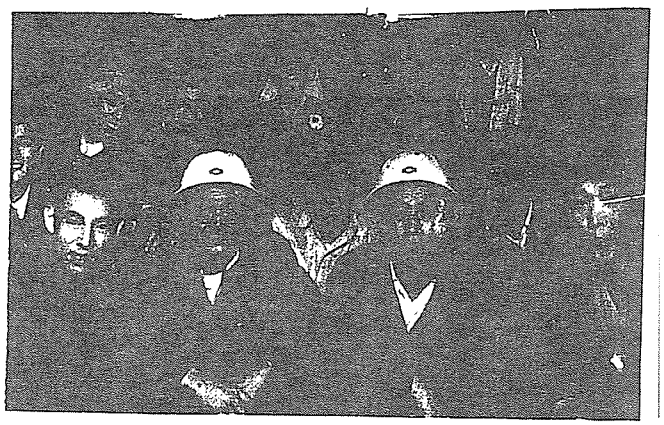
工業取締役社長　渡辺威氏から次の資料及び御子息の関西電力北支店副支店長東　正武氏から御家族との写真等を送っていただき東　正久氏の略歴、業績と人となりを掴み得た。筆者が北陸電力神通川第二発電所建設事務所に勤務（昭和27年～昭和30年）していた時に、神通川の上流宮川の関西電力打保建設所長として奮斗しておられた東　正久氏に御指導、御助言を得て以来、現在までいろいろ御指導を受けた事を思い出して本稿を纏め得た。心から感謝申し上げる。

（1）日本発送電戦時中の思い出（飯島発電所土木課長時代など）東　正久（電力土木No.225）
（2）近畿コンクリート、地下管路用プレキャストコンクリート多孔管（コンダツクス）の導入東　正久（近コン30年史）
（3）東　正久の略歴　東　正武
（4）弔辞（近畿コンクリート工業取締役会長近藤信昭）
（5）東　正久氏を偲んで（近畿コンクリート工業取締役社長　渡辺　威）（電力土木No.287）。

（ロ）東　正久の年譜

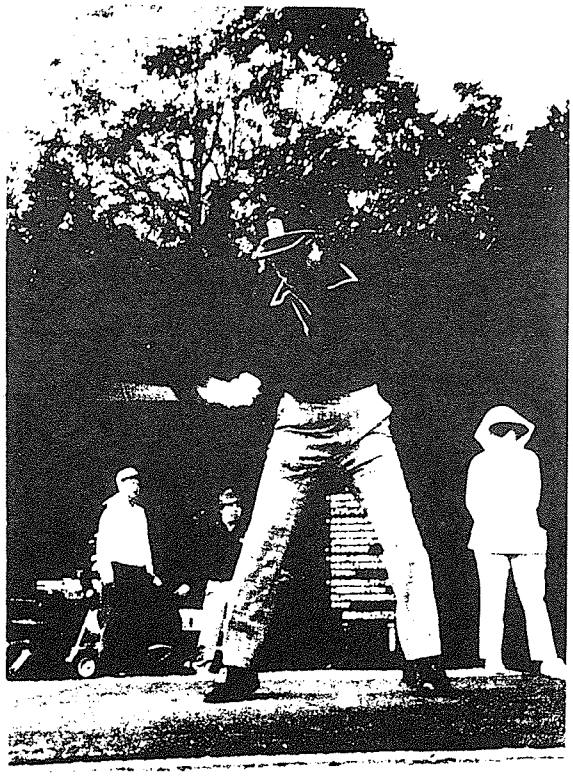
大正３年１月25日佐賀県に出生
昭和11年３月　東京大学土木学科卒業
昭和11年４月　満州国に勤務
昭和12年１月　神戸市役所土木部に勤務
昭和14年６月　日本発送電入社
　　北海道江発電所建設所勤務
昭和18年９月　天竜川飯島発電所土木課長
昭和20年10月　近畿支社水路課長
昭和26年５月　関西電力へ引継
昭和27年４月　打保水力発電所建設所長
昭和30年７月　北陸支社技術次長（庄川の鳩ヶ谷、椿原建設所の統轄）
昭和34年４月　東海支社木曽川讀書第二建設所長
昭和37年５月　東海支社長
昭和39年５月　副支配人、建設部長（淀川、天ヶ瀬水力発電所統轄、多奈川、春日出、尼崎東、姫路第一火力発電所の統轄、美浜原子力一号機建設工事の統轄）
昭和41年11月　近畿コンクリート工業へ出向、専務取締役
昭和44年８月　日本ハウジング取締役兼務（地下管路用プレキャスト、コンクリート多孔管、－コンダツクスの導入等新製品の開発に努力）
昭和44年１月　関西電力定年退職
昭和58年６月　近畿コンクリート工業専務取締役退任、技術顧問就任
昭和64年１月　近畿コンクリート工業技術問退任
平成11年12月25日　逝去（86才）

神通川打保水力発電所（昭和29年）


神通川打保水力発電所工事（昭和29年）

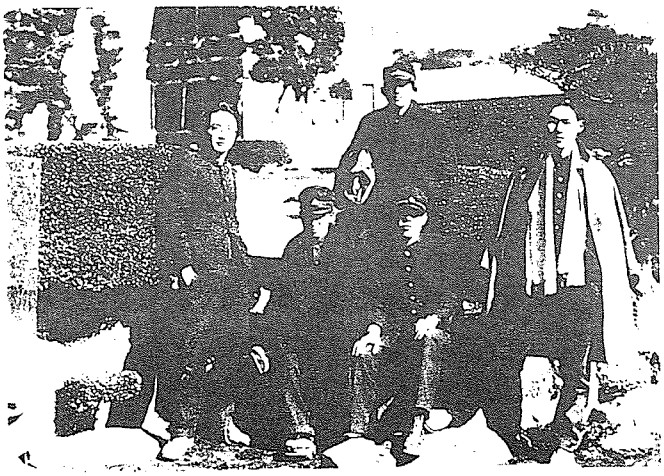
（ハ）業績と人となり

東　正久は電力土木界に身を投じてより逝去まで63年間。日本発送電　関西電力、近畿コン



好きなゴルフ（昭和54年）

クリート工業、さらに退職後もつねに業務の第一線に活躍すると共に、後輩の指導、新技術の開発に身を挺したことは、親しく関電の打保建設所長時代以来御指導を受けた筆者は勿論、近藤信昭、渡辺威氏等の諸氏の弔辞にも心をこめて書いてあるのを読んで心から尊敬する。特に、日本発送電時代の江卸発電所での熊に出会いながらの洲量設計工事と本格的な水力土木技術者としてのスタートから、飯島発電所（天竜川）の超高圧トンネルでの漏水事故等、日本の土木技術の課題克服に邁進したといえる。関西電力では、北陸支社次長、東海支社長の幹部として

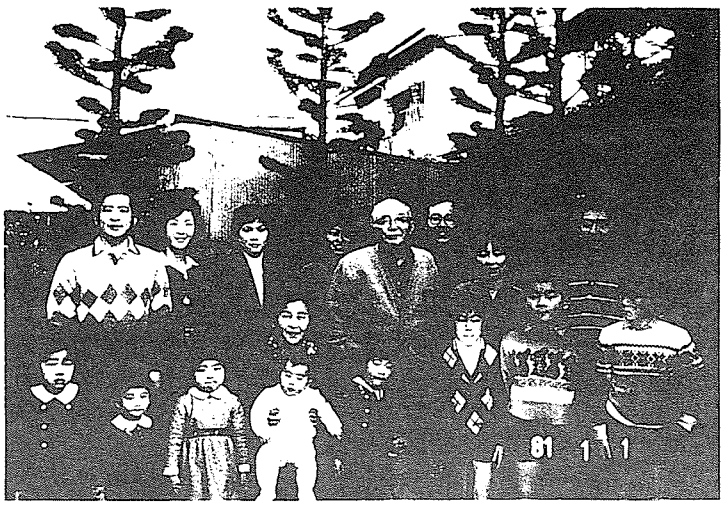


熊本第５高等学校時代（昭和７年）（左端無帽）

の業績、さらに建設部長としての活躍。その間、打保讀書第二水力建設所長鳩ヶ谷、椿原、天ヶ瀬、新丸山、黒四ダムの建設の統轄、建設支援また多奈川、春日出、尼崎東、姫路第一の新鋭火力発電所の建設工事の統轄、美浜原子力発電所１号機建設工事の統轄指導と、多方面にわたり活躍した。

近畿コンクリート工業常務取締役として新技術としてのコンダツクスの開発や工場の改革に貢献した。

人となりとしては①大変豪放磊落な親分肌の先輩　②仕事面でも、仕事外のマージャン・ゴルフ等でも、バイタリティに溢れ、タフに取り組む行動力は敬服　③退任後の晩年も含め、勉強熱心で新しい技術情報などには旺盛な関心を持ち続けた。　④仕事では真面目に、バイタリティをもって取組まれる厳しさの反面部下に暖かいおやじさんの顔を見せ後輩に親われた。

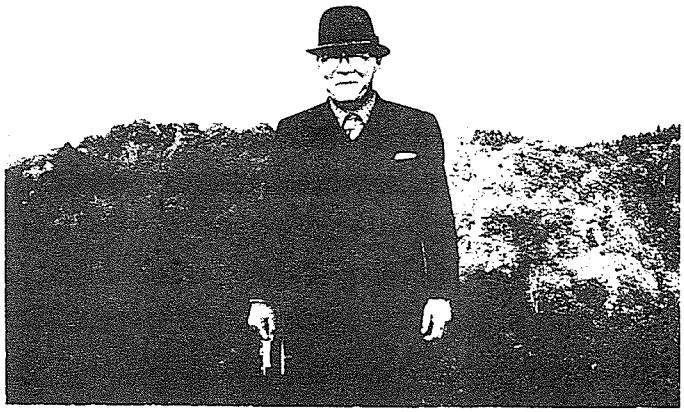


お孫さん達に囲まれて（昭和55年）

（ニ）私の東　正久観

北陸電力神通川第二建設事務所勤務時代の筆者は、同じ神通川の上流、関西電力の打保水力建設所長の東　正久氏には、お互いの現場を尋ねあって、親しく御指導を受けて以来、長年にわたって公私共に指導をうけた事を心から感謝申し上げる。新技術への積極的な取り組みと部下への思いやりと暖かい御指導には心から敬服する。

(2) 吉田　勝英



(イ) はじめに

本稿をまとめるにあたり北松治男氏（吉田勝英の義弟、前東北電力、土木部長）より履歴書、写真等を送っていただいた事と、筆者が北電産業勤務時代、金沢市新内川発電所工事を担当した際、新エネルギ財団から新内川発電所建設主任技術者として派遣されていた吉田勝英氏と56年6月から60年3月まで直接、間接に指導を受けた事を思い出して纏め得た。

心から感謝申し上げます。

(ロ) 吉田　勝英の年譜

大正3年1月15日　東京都に出生
昭和14年3月　日本大学土木工学科卒業
昭和14年4月　日本発送電建設局入社
昭和14年～昭和21年3月　軍役
昭和21年4月　日本発送電土木部に復職
（主として只見川開発計画に従事）
昭和26年6月　東北電力へ引継（只見川調査課）
昭和26年8月　柳津発電所建設所第二工区長
昭和29年1月　電源開発㈱に出向
田子倉建設所は、現場事務所長
昭和34年6月　電源開発㈱に移籍
昭和35年7月　田子倉建設所土木課長
昭和36年7月　海外技術協力室調査役
昭和37年6月　海外技術協力部次長
昭和40年5月　水力建設部次長
昭和41年8月　水窪建設所所長
昭和44年7月　定年退職
昭和44年8月　開発工事㈱専務取締役
昭和54年5月　専務取締役退任
常勤技術顧問
昭和56年3月　開発工事㈱退社
昭和56年6月　（財）新エネルギー財団
嘱託　金沢市駐在　金沢市企業局新寺津発電所並び新内川発電所建設主任技術者
昭和60年3月　新内川発電所建設業務終了につき（財）新エネルギー財団退職
平成12年5月16日　逝去（86才）
[昭和37年2月工学博士（東大）ダム基礎改良]

(ハ) 業績と人となり

吉田勝英は、日本発送電、東北電力、電源開発、新エネルギー財団で金沢市新内川工事主任技術者として46年間、電力土木に一生を捧げた。

特に、田子倉建設所、柳津発電所、水窪建設所、金沢市新内川発電所等数多くの、ダム、発電所、トンネル工事の幹部として活躍し、特にダム基礎技術、グラウト工事については、新技術開発に挑戦し、昭和37年工学博士（東大）を授興された。

その人となりは温厚な中にも、気骨のある風格と新技術に対する挑戦意欲と部下への暖い思いやりのある指導力等誠意のにじみ出た人柄には知り合った人々が口を揃えてほめたたえる人物である。

(ニ) 私の吉田勝英観

筆者は金沢市新内川発電所工事について、北電産業に勤務中、金沢市から工事監理、調査設計を依託され、吉田勝英主任技術者の指導監督を、昭和56年6月から60年3月まで工事現場で週に2回直接に指導を受けた関係から、吉田勝英氏の人のなりについて、工事の数多くの経験からのアドバイスと、工事監理に北電産業から、土木8名、建築2名、電気3名の派遣技術者の総括責任者として、部下の指導監督を含めて、貴重な教訓を数多く受けた。

人となりは温厚な中にも、骨の太い、気骨と軍隊調のはっきりとした指揮と、心温まる部下への配慮と、新技術への積極的な取り組みについては心から尊敬すると共に深く感謝する。

(Ⅳ) 電力土木人物史のまとめ

以上、各地域別及び勤務先別に取りまとめると、次表の通りである。現在40名であるが引つづき50名とりまとめて完とする予定である。

	地域別及び勤務先別	氏　　名
①	通産省関係	(目黒　雄平)　(渡辺　時也)　(市浦　繁)
②	日本発送電	内海　清温　大西　英一　(石川栄次郎)
③	電源開発	伊藤　令二　永田　年　浅尾　格　吉田　勝英 (野瀬　正義)
④	電力技研研究所	(大西　英一)　(平井弥之助)　畑野　正　田中　治雄
⑤	北海道電力	(永田　年)　岩本　常次　大橋　康次
⑥	東北電力	北村　友義　平井弥之助　後藤　壮介　矢崎　道美 吉田　栄延　山家　義雄
⑦	東京電力	知久清之助　(永田　年)　水越　達雄
⑧	中部電力	石川栄次郎　高桑鋼一郎　藤本　得　渡辺　時也
⑨	北陸電力	鵜飼　孝造　和沢　清吉　大林　士一　(市浦　繁) 金岩　明
⑩	関西電力	目黒　雄平　野瀬　正義　吉田　登　東　正久
⑪	中国電力	山本　三男　味埜　稔　村田　清逸　泉　悟策 原　文太郎
⑫	四国電力	(浅尾　格)
⑬	九州電力	能川　信之　中村光四郎　田代　信雄
⑭	コンサルタント関係等	久保田　豊　(内海　清温)　(能川　信之)　(中村光四郎)

(Ⅴ) 終りに

本稿を取纏めるにあたり御家族、電力会社、各社等の多大なる御支援をいただき、履歴書業績、人となり等に関する資料の提供をうけた事について、心から感謝申し上げる。(以上)